

目 次

はじめに

第1章 平和学の誕生とその発展過程 ————— 1

- 1 20世紀の平和学を振り返る 2
 - (1) 平和学の誕生とその特徴 2
 - (2) 平和学の発展過程 3
- 2 平和の多様性と構造的暴力論 5
 - (1) 平和概念の多様性 5
 - (2) 構造的暴力論の視点 8

第2章 国連における南北問題と構造的暴力の解決 ——— 13

- 1 経済開発・社会開発から人間開発へ 14
 - (1) 国連における南北問題 14
 - (2) 今日の南北問題の課題 16
 - (3) 国連における構造的暴力の解決 20
- 2 「ミレニアム開発目標」(MDGs) から「持続可能な開発目標」(SDGs) へ 21
 - (1) MDGsはどのように生まれたのか 21
 - (2) SDGs策定までの背景 23
 - (3) SDGsの特徴とは何か 25

第3章 SDGs時代の平和学を求めて ————— 29

- 1 SDGs達成への課題・評価・批判 30
 - (1) SDGs達成への全員参加 31
 - (2) SDGs達成への課題と評価 34
 - (3) SDGsそのものに対する批判 37

- 2 現代の構造的暴力とは何か 40
 - (1) 新自由主義グローバリゼーションによる構造的暴力 40
 - (2) 移民・難民・強制移動民問題にある構造的暴力 41
 - (3) 近代500年間の西欧と非西欧との関係にある構造的暴力 43

第4章 SDGs達成のための多様なアクターの役割 ——— 47

- 1 ローカルな視点から考える 48
 - (1) 多様なアクターによる全員参加 48
 - (2) スローフード運動から考えるローカリズム 49
 - (3) ローカルとグローバルの対話 52
 - (4) ローカリズムの思想と活動 54
 - (5) 内発的地域経済論とサブシステム論の視点 56
- 2 エシカル消費とESG投資の視点 60
 - (1) エシカル消費の活動とその意義 60
 - (2) ESG投資という選択 61

第5章 アクティブ・ラーニングで学ぶSDGs ————— 65

- 1 現地で学ぶ持続可能な開発 66
 - (1) 事例：スタディツアーで学ぶSDGs 66
 - (2) 現地で行うワークショップの意義 82
- 2 アクティブ・ラーニングの事例と意義 84
 - (1) アクティブ・ラーニングとしてのスタディツアー 84
 - (2) 平和学におけるアクティブ・ラーニング 85
 - (3) アクティブ・ラーニングの意義と評価 88

第6章 平和学の課題と展望 ————— 91

- 1 これまでの総括 92
 - (1) 平和学の価値と客観性 92
 - (2) 現代グローバル化社会の危機と懸念 95

2	これからの平和学	106
	(1) グローバルリスクと教皇回勅の衝撃	106
	(2) 地球市民社会への期待	109

主要参考文献一覧

あとがき